



支部長あいさつ



片岡嘉幸氏 (大25)

新型コロナウイルス感染症に悩まされる日々が続きますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

名古屋支部では役員若返りを進め、オンライン会議を数多く行い、ホームページ、メルマガの充実を図っております。昨年書面開催となった支部総会は、今年は十分なコロナ対策を行い、通常開催をしたいと思っております。皆様にご覧いただき、ご意見を頂戴することができれば幸いです。

さて、彦根高商は1923年に産声を上げ、2年後に100周年を迎えます。本年7月には

発行所
 陵水会名古屋支部
 〒460-0002
 名古屋市中区丸の内2丁目20-25
 メットライフ名古屋丸の内ビル9階
 (株)アルファコンサルティング内
 (代表取締役 牧野博和方)
 TEL 052-223-2011
 発行責任者 片岡嘉幸 (大25)
 印刷所 (株)山菊
 ☎052-731-1525(代)

「講堂」改修竣工式 開催

2020年6月2日、滋賀大学彦根キャンパスで講堂の改修竣工式が開催されました。新型コロナウイルスへの感染防止対策が講じられる中、陵水会理事

陵水会本部に「100周年記念事業推進体制」が立ち上がり、この事業を成功させたいと考えます。記念式典は、2023年11月ごろの開催予定です。多くの卒業生が彦根に集まっていた、大学、学生、彦根市民を巻き込んだ祭典にする計画です。部活やゼミ、同期会などの会合もこの時期に合わせていただき、祭典を盛り上げていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



長のほか学長や両学部長、彦根市長や彦根商工会議所会頭が新しくできた講堂前広場でテープカットを行いました。

耐震性能不足により、講堂の使用が停止されたのは2015年の春。約5年の歳月を経て姿を現した講堂は、以前と変わらず、凛とした佇まいのなかに温かみがある風貌でした。

耐震改修では、基礎を強化するため、講堂がジャッキアップ工法によって約1m持ち上げられました。元の大ホールはそのままの形を残しつつ映画上映が可能な設備を備え、元の小ホール部分は教育研究用に機能改善され、企業との共同研究や学生の集うスペースとして使用されていくようです。



講堂は、彦根高商の開学以来、ほぼすべての学生や教職員、地域の人々が目にしたシンボルです。

1924(大正13)年に建てられてから現在まで、学校行事や地域振興、その他映画撮影などにも活用されてきました。1931(昭和6)年には新渡戸稲造の講演会が、1937(昭和12)年にはヘレンケラーの講演会が行われました。近年では、映画「君の臍臓をたべたい」の撮影に使用されています。

これからも陵水会員や教職員、地域の人々の共通の場として講堂が活用され、彦根キャンパスとともにその歴史を積み重ねていってほしいと思います。

※竣工までの様子を収めた動画が滋賀大学HPにアップされています。

■今井綾乃 (大58・院41)

海老せんべい製造卸・小売・各国産乾海苔問屋

株式会社 ヤマ伍三矢商店

代表取締役 三矢 誠 (大25回)

〒444-0426
 愛知県西尾市一色町治明大戸前10
 TEL (0563)72-8117
 FAX (0563)72-3322
 E-mail yamago@katch.ne.jp

公認会計士 山内佳紀事務所

公認会計士・税理士 山内佳紀 (大23回営)

〒466-0807 名古屋市昭和区山花町94-4
 TEL 052-761-1386 FAX 052-761-1869
 E-mail:info@cpa-yamauchi.com

新型コロナウイルス発生当時の母校の様子

発生当時の母校の様子

いまだ新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、母校にはOBをはじめ各所から、様々な支援が届いています。

例えば、2020年4月下旬、滋賀大学を修了・卒業した中国人留学生有志66名からマスク1万枚が大学に寄付されました。現在、学生は寄付されたマスクをキャンパス内でもらうことができません。

寄付されたマスクの箱には次のような詞が添えられていたそうです。「飲其流者怀其源 学其成时念吾师（その流れを飲むものはその源を思い、その成果を学んだら我が師を思う）」。

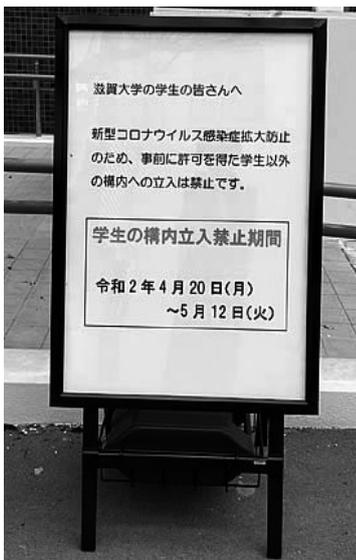
また、2020年6月、滋賀大学は生活に困っている一人暮らしの学生に近江米や食料品などを提供しました。これは滋賀県と同学両キャンパスの後援会（在学生の保護者で成る組織）による支援だそうです。

当初、滋賀県が滋賀大学に用意した支援は240人分。下宿生を対象に希望者を募ったところ大津、彦根キャンパスで提供数を上回る申込みがありました。そこで、不足する分を両キャンパスの後援会が支援し、希望者全員に提供したそうです。

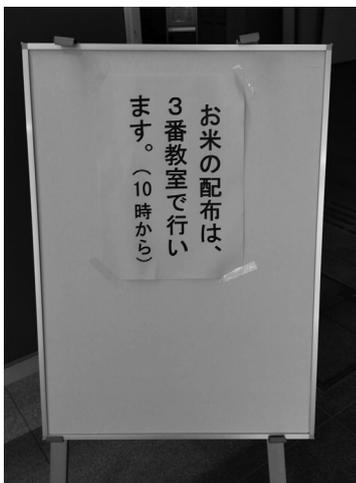
新型コロナウイルス感染症の影響は、残念ながらしばらく続

きそうです。4月以降、彦根ではベルロード沿いにある飲食店が何件か閉店しました。また、母校では春学期のすべての講義がオンラインとなりました。学生はアルバイト先をなくしたり、友人と会えない日々を過ごしたりしています。その一方、学生生活を取り戻そう、あるいは、新たに始めようとする学生も、少しずつみられるようになってきています。

関今井綾乃（大58・院41）



現在は、写真のようにはなっていません



2020年滋大祭



2020年12月20日、滋賀大学彦根キャンパスで「滋賀大学学生交流会」が行われました。コロナ禍において多くの大学が学園祭を中止するなか、私たちの母校は来場者を学内生に限定した「滋賀大学学生交流会」として学園祭を開催しました。滋大祭実行委員会によると、彼らは新入生に交流の場を設けてあげたい、また、各団体の成果発表の場を設けてあげたいとい

会社経営から相続等までお気軽にご相談ください。

税理士法人 表野会計

代表社員 表野宏和 (大29回)
税理士

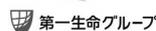
〒467-0043 名古屋市長郷区岳見町1丁目13番地
TEL : 052-832-2049 FAX : 052-834-1797
E-mail : hyonok@luck.ocn.ne.jp

生命保険・損害保険37社を取り扱う代理店です。保険の相談、遠方も対応します。



株式会社 アルファコンサルティング

代表取締役 牧野 博和 (大学28回卒)



〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-20-25
メットライフ名古屋丸の内ビル9F
TEL (052) 223-2011 FAX (052) 223-2013
E-mail info@alpha-consul.com https://alpha-consul.com



う想いを強くもち、大学と交渉を続けたそうです。交流会に参加した学生から話を聞くと、普段の滋大祭でみられるフリーマーケットや模擬店の出店はありませんでした。各団体によるステージや展示を楽しむことができたそうです。また、例年どおり、抽選会も盛大に行われたようです。

陵水会は、2019年の滋大祭に続き、今年の「滋賀大学学生交流会」にもブースを出しました。陵水会本部の若手交流委員会と100年史編集委員会が共同し、大学や彦根の今昔写真を展示しました。今昔写真は、名古屋支部・京都支部の皆さんにお手伝いいただきながら両委員会が用意。また、新型コロナ



2020年4月、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、彦根キャンパス内への学生の入構を禁止するらしい、との情報を得た私は、意を決し、愛知から大学へJ.Rで向かいました。な

コロナ禍と なつて一年

ウイルスへの感染予防のため、展示準備は陵水会事務局に、当日のブース運営は入江先生(大准教授)に行っていたいただきました。2021年に滋大祭が開催されるのであれば、より多くの陵水会員が学生生活を懐かしむことのできるブースを出展したいと思います。皆さんのご来場が叶いますように。

【今井綾乃(大58・院41)】

1月末	流行地域への移動禁止
3月上旬	課外活動の禁止・卒業式と入学式の中止・滋賀県内で初めて感染者を確認
3月中旬	新歓の禁止・就職支援課や保健センターの利用禁止
3月下旬	オンライン授業の導入告知
4月上旬	授業開始の延期・オンライン授業の実施
4月中旬	校内入校禁止
5月上旬	校内入校禁止の期間延長(5/31まで)
6月	校内入校禁止を解除・学内施設の利用制限緩和

ぜなら、院生である私は、研究室に置きっぱなしである本や資料を、取りに行く必要があったからです。彦根駅では、県外から来た私を疎むように「不要不急の外出を控えよ」というアナウンスが鳴り響いていました。「私には必要なのです、大学に行くことが」と心の中でお詫びをしながら、お堀沿いを歩き大学へ向かいました。すると、満開の桜が私を迎えてくれました。その横には休園中の彦根城と休校中の東高、西中。異様ではありながらも、桜を独り占めできた春は、この上ない贅沢でした。

この年、彦根の桜を愛でることができたのはこの日だけとなりました。翌日から、1ヶ月以上にわたって大学への入構が禁止となりました。春学期間に、

大学から学生に届いたいくつかの連絡をもとに経過をたどると、表のとおりです。入構禁止が解けたのは6月。それ以降も、学生は大学にほとんどいません。彦根では閉店する飲食店もありました。各団体から学生へ物資の支援があり、奨学金制度も新たに設けられました。

春学期が終わると、学生がキャンパスに少しずつ戻ってきました。課外活動は再開され、9月には新歓も行われました。また、秋学期はオンライン授業と対面授業のハイブリット型となりました。2021年度は多くの講義で対面授業が展開されています。

陵水会員の多くが、一生で最もチャホヤされたと懐かしむ1回生の4月。それを経験できな

エレクトロニクスの
ミズショー株式会社
MIZUSHO

本 社：〒466-0058
名古屋市中区白鳥1丁目4番20号
TEL: (052)872-6451

拠 点：愛知県刈谷市(事業所)
中国浙江省、広東省
タイ国 サムットサコーン県

U R L: <http://www.mizusho.co.jp/>

代表取締役社長 橋本 衛(大31回)
総務部 次長 高橋和孝(大44回)

外装タイル、外装モザイクタイル製造
東濃窯業株式会社

代表取締役 安藤 久(大学31回)

【本 社】 岐阜県土岐市下石町304番地
TEL 0572-57-8111 FAX 0572-57-8115

【山 神 工 場】 岐阜県土岐市下石町2308-1
TEL 0572-57-4500 FAX 0572-57-5033

【石給出荷センター】 岐阜県土岐市下石町304番地
TEL 0572-57-8281 FAX 0572-57-2889

かかった新入生は、どうしているのだろうか、と気がかりでした。しかし、彼らは逞しい。SNSで友人を作り、そこで2回生以上が1回生の相談を受けていました。そして、新入生の多くが秋学期間に各部活やサークルへ入部をし、良き仲間を得たようです。

混乱の1年が過ぎ、2021年3・4月。卒業式と入学式、そして、2回生のための入学式が分散して行われました。感染症対策とはいえ、講堂で卒業式が挙行されたのは何年ぶりでしょうか。耐震工事が終わり、凛と佇む講堂。この講堂に、多くの人が自由に出入りできる日が待ち遠しいです。きっとそれはもうすぐ。それまで健やかに、日々できることを大切に過ごしていきたいでしょう。

【今井綾乃 (大58・院41)】



陵水亭懇話会

第21回陵水亭懇話会

2020年8月22日(土)、第21回陵水亭懇話会が開催されました。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初めのオンライン開催となりました。参加者は10名でした。

【演題】『来る100年と次の100年に向けてー彦根高商の日々を知るー』

其の四 新聞報道にみる彦根高商(ゴシップ編)

【講師】今井綾乃(大58・院41)

感想寄稿

▼地域の気持ち 皆さんは、『青い山脈』とい



う映画をご覧になったことがあるでしょうか？

彦根フリークであれば、もちろん・1963年版(吉永小百合版)のことです。今まで5回映画化されている中で三度目の映画化作品です。

※1990年代以降のカラオケの画面に現れることのある映像はこの作品らしいです

原作は、1947年(S22年)に新聞連載で評判になった石坂洋次郎の小説。

この映画は1963年作。ストーリー上は、あくまで架空の、古い常識にとらわれたどこかの城下町という設定ですが、彦根城や「彦根」と表示された街並みが写っています。彦根ロケでは連日、映画スターが街中で撮影していたでしょうから、当時は大騒ぎだったでしょう。

女子の舞台Ⅱ新制・女子高等学校はお隣の西中ですが、男子(大学生)の舞台は滋賀大!当時の惣聖寮が写っていたり、ラグビー部の練習風景は滋賀大の

グランドで当時のラグビー部員を交えてだったり・・・見どころ満載の作品です。あくまでも映像作品ですが、当時の様子や人々の気質のあり方がよく分かります。

さて、今回のオンライン講演が取り上げた時代は、更に昔の1928〜1940年。新聞記事だけで当時の雰囲気はどこまで分かるのだろうか?という興味もあり参加しました。取り上げたのは6つ(7つ)の記事ですが、その選択の妙というか、古臭い昔の雰囲気というよりは、今の我々にも共通する青年たちの営みを垣間見て、新鮮な驚きを覚えました。時代によっても変わらない気持ち、地域に根付いている気持ちを、講師の解説の中に感じました。

例えば自分は、大学OBオケに加わっており、演奏会の前にはチラシ配りをします。地域に根付いている気持ちを感じるのには、その時です。与えられた枚数のチラシをポステイングするだけですが、すれ違う住人の方に手渡しすると、旧市街では「滋賀大の・・・」と言うだけで、「ああ・・・」と快く受け取っていただけののです。まさに神通力!

URL: <http://www.jskk.com>

重機商工株式会社
JUKI SHOKO Co.,Ltd.

- 創業61年
- コマツ建機販売修理リースレンタル
- 国内各メーカーソーラー発電施工実績1000件以上

代表取締役社長
Masao
城所 真男 (33回卒)

〒464-0850
名古屋市千種区今池5丁目34番17号
TEL.052-741-1211 FAX.052-733-1238
E-mail:mkidokoro@jskk.org
携帯:090-2618-8438
E-mail:mkidokoro1963@gmail.com

喫茶 ベル

鈴木俊彦 (大33回)

名古屋市港区秋葉1-120
(国道302号南陽農協前交差点角)
TEL 052-301-5437

先輩方の恩恵をいただいております(感謝)。

何度も映画の舞台として使われている魅力ある街並みと、そこに息づいている地域の皆さんの気持ち。その雰囲気はいつ頃から醸し出されたのか? その片鱗を教えてくださいたい講演でした。

【圖横井隆幸(大33)】

第4回「新聞報道にみるゴシップ記事」

これまで公に明らかにされてこなかった、彦根高商生のゴシップを取り上げる。このテーマを選んだ理由は、簡単にいえば、これまで誰も明らかにしてきていないからである。

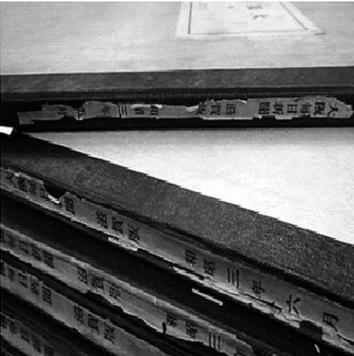
彦根高商の様子を知ろうとする時、まずは滋賀大学経済学部が発行してきた記念誌や同窓会史を見ることになる。ただ、それら記念誌は、一般的には自らの歴史を誇るものであり、地域で起きた彦根高商生の事件・事故は扱っていない。そこで今回は、一般に発行されていた新聞記事に載ったゴシップを取り上げて、彦根高商生の学生らしい彼ら本来の姿を見てみる。



▼今回見ていく新聞について

今回参照する新聞は大学にある資料で、滋賀大学「経済経営研究所」が所蔵していたもの。この経済経営研究所は、彦根高商開校時(1923年)に設置された「調査課」を原点としており、生徒や教官の調査研究のために沢山の資料を収集していた。そのため、多くの彦根高商の資料が今でも沢山残っている。それらをホームページ上でも公開している。

調査課が収集した資料には、



中外商業新報、日刊工業新聞等もあるが、今回は「大阪朝日新聞」「大阪毎日新聞」を取り上げる。時代は、1928年(1940年頃)の中でも、滋賀県の情報を集めた滋賀版を辿ってみる。

※写真の資料は、大阪朝日新聞、大阪毎日新聞の滋賀版のみを製本したもの

▼所蔵する新聞の特徴

経済経営研究所が所蔵する大阪朝日新聞、大阪毎日新聞には、ある特徴がある。それは、『原紙である』という点。現在、戦前の新聞は公立図書館で閲覧できる場合もあるが、一般的にはデジタル化されたものしか提供されない。滋賀県の公立図書館には、新聞の原紙が一切残っていない。愛知県でも新聞閲覧を希望すると、デジタル化したものを出される。

原紙が残っている図書館もごく僅かあるが、時代が進みデジタル化されたり、原紙が劣化したり、保管場所がなくなったりして、次第に各図書館では新聞の原紙を廃棄するようになっていく。そのため、原紙そのものが現存することは、とても貴重と言える。新聞は読んだら捨てたり何かに使ったりするもので、残しておいても日焼けしたり汚れたりするが、100年後の私たちが見ると、そんな新聞も歴史資料のひとつであることを実感できる。

▼彦根高商生のゴシップ報道

このような歴史や特徴を持つ2つの新聞から、彦根高商生のゴシップ報道を6つ見ていく。まずは、「地域社会が彦根高商生の存在や風紀に関心を寄せていた」ことが分かる報道を2つ。

※これ以降の写真は全て、滋賀大学経済経営研究所所蔵「彦根高商卒業アルバム各年」より

■停学処分波紋

【1つ目の報道】

「事件の概要」『大阪朝日新聞』1928年昭和3年12月5日付記事

彦根高商の3年生5名が遊郭へ行ったことに対し、

公認宅地建物取引業
 有限会社 **クリエイト 鳩** / きゅう
 ー不動産売買・賃貸・管理・リフォームー

営業部長 **中川 雄志** (大50)

〒445-0876 愛知県西尾市住崎町雁淵15-2
 TEL (0563) 55-0200
 FAX (0563) 55-0230
 携帯 090-5972-4292
 E-mail info@create-q.com
 https://www.create-q.com

- ・ 学校は、生徒の停学を命じ、父兄を学校へ電報で呼び寄せた。
- ・ 生徒の中には処分に不平不満をもつ者がいた。なぜかというところ、
- ・ 学校が飲食店に偽名で調査をしたため。また、
- ・ 御大典(昭和天皇即位)祝いの最中、父兄を電報で呼び寄せたため。
- ・ 不満を持ちながらも、生徒らは自浄作用をもたらす学生会の結成を決定した。
- ・ 但し、学生会の正式結成までには紆余曲折があり、新聞も続



報として伝えている。

いくつかあった統報のうち、

2つ紹介すると・・・

「統報その1」『大阪朝日新聞』
1928年12月6日付記事

・ 講堂に生徒500余名が集合し、

・ 4時間にわたり学生会の結成について議論した。そして、

・ 「自治的精神を基調として向上発達を目的とする」案を作成し、教授会へ提出した。

「統報その2」『大阪朝日新聞』
1928年12月9日付記事

・ 提出された案に対し、教授陣が何度も議論し合った。

・ 教授会では、学生会の結成は賛成。ではあるが、

・ 生徒が一丸となつて、良い方向へ進んでは困ると懸念。



念。

「統報が何回か出た後に」

・ 3度の教授会を経て、年末に学生会の結成が許可された(1928年12月27日)。

現在の学生会に至る起源が、この遊郭事件にあるとも考えられる。

■漕艇部事案から始まった生徒の団結

1つめの記事と同様、新聞に幾度と報じられ、人々の関心が寄せられていた彦根高商の事件。

【2つ目の報道】

「事件の概要」『大阪朝日新聞』
1932年10月4日付記事

・ 彦根高商の漕艇部9名が関西漕艇選手権大会の練習のため

授業を1週間欠席。
・ 学校は、彼らを懲戒処分とした。

・ 反発した漕艇部全員が脱退届を部長教授に提出。

・ 他部活動の幹事や部長30名も総辞職を決意し、懲罰緩和の嘆願書と辞表を校長に提出。

・ 学校は試験が近いことを理由に、ひとまず保留とした。

同じ記事に掲載された、生徒主事の先生の話によると、

・ 漕艇部選手には(授業を休まないよう)、事前に注意していた。

・ 彦根高商には、特別制度(大会出場者の授業欠席を認める選手制度)はない。

・ そのため、やむなく処分した。



「統報その1」『大阪毎日新聞』
1932年10月6日付記事
大阪毎日新聞から(2日後に)出た統報によると、

・ 学校と先輩が、漕艇部選手や他部活動の幹事を慰撫した結果、

・ 生徒は、認識不足であったとの見解。

・ 辞表を撤回し、円満解決。

同じ記事の最後に、

・ 学校に不満を持つ硬派な生徒が何人かまだ残っている。

・ 彼らが外部のテロ系組織と結びあう懸念あり。そうなると、就職率も全国1位を誇る校史に汚点を印す。という内容で、

・ 学校への注意を呼び掛けている。



■地域社会から影響を受ける風紀

「彦根高商とその地域が繋がりを持っていた」ことが分かる報道。

【3つ目の報道】

「事件の概要」『大阪毎日新聞』
1930年7月5日付記事

・ 当時、彦根駅近くの近江帆布会社彦根工場では頻繁に労働争議があった。彦根署は、

・ 彦根高商3年生の1名が、繊維労働組合幹部と親交を持ち、

・ 京都から争議に来た須田という人物を下宿先に泊めたことを知り、

・ 須田逮捕のために彦根署が生徒の下宿先へ行くと、



- ・そこに争議のパンフレットが多数置いてあった。
- ・生徒は検束処分となり、翌朝に放還された。
- ・同じ記事に掲載された、校長と生徒主事の教官のコメントによると、
- ・生徒の下宿先にあったパンフレットは、生徒が印刷したものではない。
- ・直接、争議には関係していなかった。

■地域へ与える問題

次の2つの報道では、「彦根高商生が地域へ頻繁に出向いていた」とを知ることができる。

【4つ目の報道 その1】

「事件の概要」『大阪毎日新聞』1931年5月10日付記事

・彦根高商生の「食費不払い」



がひどいので、

- ・彦根高商附近の食堂12軒が、「不払い高商生をロックアウトする」ために「食堂組合を結成した」。
- ・学校付近だけでは効力がないので、彦根全町の食堂に加盟

させる予定であり、

- ・そうなった場合、生徒に恐慌が起ころう。

【4つ目の報道 その2】

「事件の概要」『大阪毎日新聞』1937年4月13日付記事

- ・3年生1名が、袋町で泥酔、徘徊している最中に、
- ・通り合わせた理髪職人をビール瓶で殴打、全治10日の怪我を負わせた。
- ・駆けつけた彦根署巡査にも殴打し、全治1週間の怪我を負わせた。

この記事では、彦根高商生による暴行事件が繰り返されていると指摘。そのため、彦根署から学校に警告を発することとなった。

彦根高商生が外出してお酒を飲み、楽しい学生生活を過ごしていた様子が分かります。

■彦根高商を指摘した者による事件

悲しい事件の報道。

【5つ目の報道】

「事件の概要」『大阪毎日新聞』1934年2月13日付記事

- ・彦根高商へ入学手続きのため、三重の中学生がつるや旅館に宿泊した。
- ・旅館には「文房具を買ってく

る」と言って出かけたが、彦根駅の踏切で列車に飛び込んでしまった。

- ・この中学生は、過度の勉強による神経衰弱症であったとされた(高等教育への入学はそれほど大変なことであった)。
- ・この記事によれば、受験生は受験日の前にも、彦根の宿屋を利用していただけが分かる(彦根高商が地域へ経済的利益をもたらしただけと言えない)。

■お騒がせ

【6つ目の報道】

「事件の概要」『大阪朝日新聞』1932年10月25日付記事

- ・1年生1名が、りょうぜん霊仙嶽へ登山

し、行方不明になった。※霊仙嶽…現在の米原から醒ヶ井あたりにある山。

- ・生徒が下山しないことから、翌朝、山岳部や地元の青年団などで捜索を始めたところ、
- ・生徒は正午に、何知らぬ顔で下山した。
- ・生徒によると、道に迷い約7時間歩いたが、最終的には山頂に着いた。ただ、
- ・日没になったため、熊笹に寝転んで一夜を明かし、
- ・下山した際には、ふもとの民家で朝食をいただいた。

この行方不明事件により、彦根高商の山岳部は、りょうぜん霊仙嶽に案内札を立てた(この案内札は今



る」と言って出かけたが、彦根駅の踏切で列車に飛び込んでしまった。

- ・この中学生は、過度の勉強による神経衰弱症であったとされた(高等教育への入学はそれほど大変なことであった)。
- ・この記事によれば、受験生は受験日の前にも、彦根の宿屋を利用していただけが分かる(彦根高商が地域へ経済的利益をもたらしただけと言えない)。

■お騒がせ

【6つ目の報道】

「事件の概要」『大阪朝日新聞』1932年10月25日付記事

- ・1年生1名が、りょうぜん霊仙嶽へ登山



し、行方不明になった。※霊仙嶽…現在の米原から醒ヶ井あたりにある山。

- ・生徒が下山しないことから、翌朝、山岳部や地元の青年団などで捜索を始めたところ、
- ・生徒は正午に、何知らぬ顔で下山した。
- ・生徒によると、道に迷い約7時間歩いたが、最終的には山頂に着いた。ただ、
- ・日没になったため、熊笹に寝転んで一夜を明かし、
- ・下山した際には、ふもとの民家で朝食をいただいた。

この行方不明事件により、彦根高商の山岳部は、りょうぜん霊仙嶽に案内札を立てた(この案内札は今

もあると聞いたことがある。ぜひ探してみてください。

まとめにかえて

彦根高商生をめぐる事件・事故の「新聞報道」から、次のことが分かる。

○学校史では知ることのできなかった事件や事故を知ることができる。

○地域と高商が深く関わり合っていたことも分かる。

○今回は、彦根高商がかつて収集していた新聞の原紙を活用。新聞は歴史資料である。

（其の四・完）
まとめ 國横井隆幸（大33）

第9回現役生・OB交流会

コロナ禍の今年。名古屋支部恒例の「現役生&OB交流会」は6月開催が中止となったものの、同様の趣旨にて11月開催いたしました。

【日時】2020年11月22日(日) 10:00~18:30

【場所】Zoomによるオンライン形式

【参加者】

「現役生」3名（のべ9名）
2+2+3+2

「協力OB」16名（5+3+4+4）

「スタッフ」7名（うち3名は協力OBとしても参加）。

当日の進行

◆司会からOB（A,B,C,Dさん）へ質問する形式です。
→同じ質問をOB全員に回答してもらう

- 1.趣旨説明、司会 自己紹介
- 2.OBの自己紹介 1分
- 3.司会から事前にOBへ連絡していた質問
- 4.学生からの質問

交流会を終えて

■今回の学生交流会は初のオンラインでの開催であったので、事前準備の時間がいつも以上に多くかかったと思う。ですが、その甲斐あってか、当日の進行は想像以上にスムーズに行えたのではないかと。また、現役生の参加者は少人数となつてしまつたものの、対面での交流会に比べても濃い内容の説明が出来たのではないかと思ひました。加えて、オンラインではOBが学生へ個別に話をしてる内容を皆さんが順に知ることがで

きた。それによって、各OBは伝えたいことを十分に話せたのではないかと思う。※対面では、OBが学生へ個別に話をしてる内容はわからないです。

具体的には、OBが話したいことを10個用意していたとすると、いつもは重要だと思ふことを順を追つて伝えるために（時間の都合等で）7つや8つで終わるしかないところを、他のOBが既に伝えていたことは言わないことで、10個すべて伝えられたのではないかと思う。これは学生にとつても、多くのことを聴くことができて良いのではないかと思う。

ただ、オンラインであるが故に相手の顔しか見えず、現役生は本当に理解しているのか？理解していないのか？が、わからなかった気がする。対面もオンラインも良し悪しだと思ふが、オンラインも行いつつ対面での交流会も行つていければと思つた次第です。

【土屋敦史（大57・学生部会）】

■オンライン形式による開催は初めてで、当日は次のように進りました。

【進行】

1)「協力OB」

次の4分野に分かれて待機。各分野では、司会から発する質問にOB全員が順に回答（各90分）。

「メーカー（トヨタ系）」「メーカー（トヨタ系以外）」「金融」「商社・不動産・その他」

2)「現役生」

興味のある分野の時間帯に参加。OBの話聞きながら、適宜質問して回答を得る。

【今回の特徴】

参加者が一堂に会して、分野毎に同時進行する（従来の方）法では、他分野の話に触れる機会は限られていました。しかし今回は、全体の開催時間は長かったものの、各分野・各OBの話をつくり何うことができ

【現役生の皆さん】

各回続けて参加して下さる方ばかりだったので、お互いに慣れてくると、次第に質問も活発に！

特に、一番知りたいであろう「今の仕事を選んだ決めては？」という問いには、決まって「OBとも「ご縁があつて・・・」社会人になつたという話の流れに。

そう・・・就活は「仕事を考えるスタート」ではなく、「学生時代の総決算」であるという点に、納得いただけたでしょうか。

オンラインだから伝わったこと、伝わらなかつたこと。いろいろ考えさせられる一日となりました。

【終了後】

スタッフ反省会で「やっぱり滋賀大生はいいなあ」とつぶやかれた言葉が印象的でした。皆様、長時間お疲れ様でした。

【國横井隆幸（大33・学生部会）】

リーダーシップ論

■「リーダーって何？これまでの今と変化する未来」

【日時】10月22日（木）

【場所】教室とオンラインにて講義

【演題】「リーダーって何？これまでとの今と変化する未来」



2020年10月22日、教室とオンライン合わせ50名の学生に、大学の教室から講義を実施しました。

会社員（監査法人）11年と独立2年で得た経験を基に、リーダーと人間の感情の關係にフォーカスしました。具体的には、人間がAIに勝てる分野は心理や感情を扱う分野であり、リーダーの言動が組織にどのような影響を与えるか、また変化に対応し自分の感情を克服する大切さを伝えられたかと思えます。

学生の感想は、「リーダーはパワーで引張るものではないと知った」「部活やバイト先で早速試してみたい」「会計士の話が聞けず残念」等で、当日の質問も鋭いものがあり、非常に興味しました。

今37歳の自分が77歳で死ぬとして残り40年、3分の1は寝るため実質320カ月しか動ける人生がないと思うと、何かに後悔している暇はありません。日々感謝し、精進したいと思えます。

【水野智仁（大54）】

■「リーダーシップ論」

【日時】10月29日（木）

【場所】オンライン講義

【演題】経営現場におけるリーダーの仕事について



令和2年10月29日、滋賀大学にて、リーダーシップ論の講義を行いました。久しぶりの彦根でしたので、少し早めに到着し、学生時代によく通った安清町の「しる万」で昼食をとり、大学に向かいました。

講義では、パナソニック勤務時代の自身の経験に基づき、経営現場におけるリーダーの仕事について、将来を見据え戦略的に事業を進めた事例、危機に陥り挽回を図った事例、時代の転換期において新事業を立ち上げた事例を紹介し、説明しました。また、リーダーに必要なスキル、資質について持論を述べました。

今回の講義は、新型コロナウ

イルスの影響のため、オンライン講義となり、現役学生と直接のやり取りはなく、「今の滋賀大学」を肌で感じることは出来ませんでした。

大学の状況は、「経済、経営といった学問は、私学との競合が一層厳しくなってきた」とあり、教授、学生ともに人材の確保に苦戦している。国からは、国立大学として、より先端的な学問を求められている」とのことでした。

帰りに、本町のクラブハリエに立ち寄りお茶をして帰りました。天気も良く彦根を満喫した一日となりました。

【村田和弘（大30）】



支部の各部会紹介

組織部会

【落合睦司（大30）】

2020年秋より、組織部会を担当させていただいております。クラブ、ゼミ、職場と通じての縦横のつながりに加え、年度幹事の方を通じて、より密な関係を作っていくことが組織部会の役割と考えています。現在、コロナ禍のため陵水亭懇話会は休止しておりますが、再開の折には、ぜひ参加いただきたいと思えます。大学4年間で過ごした滋賀大学を通じて、色々な方々と繋がることができたことに感謝しつつ、微力ながら名古屋支部のお役に立てるよう活動していく所存です。

総会部会

【榎本尚哉（大25）】

20年度はコロナ禍の中で総会は中止せざるを得なくなり、20年度に対する活動もなくなりました。先行きが見通せない中21年度総会をどうするかを議論し、何とか今年度は実施する方向で総会幹事の方々とも模索を進めています。これまで参加者を

いかに増やすかを考えてきた中で奇妙な状況です。今後の総会のあり方を考える、との天の声かもしれません。名古屋水屋の皆さんが楽しく、安心して集まれるように早くなつてほしいですね。

学生部会

【米澤正治（大25）】

学生部会の主たる活動は、年2回（2月・6月）の「学生交流会」の実施である。「学生交流会」とは、現役大学生に対するOBによる就活支援を懇談形式で行い、それによって両者の交流を深めようとするものである。しかし、2020年度は、コロナ禍にあつて従来型の交流会は中止せざるを得ず、11月22日、第9回「学生交流」をオンラインにて開催することとなった。業種別に4コーナーを設けてOBに対応を願ったが、参加学生数は延べ9名と少なく、やや寂しい交流会となった。次回は2022年2月を予定しているが、形式等は未定である。

若手部会

【土屋貴巨（大54）】

昨年度は「明智光秀を知ると題した地元の散策」「Web飲み

会「異業種交流会」「現役生との交流イベント」を検討しておりましたが、コロナ禍であり全て見送りとなりました。本年度は『Withコロナ』を前提に、新入会員をフォローできる企画を推進していきます。入社後の歓迎会が見送られるなど、社会人の先輩と交流を図る機会が少なく不安を抱く若手を全力でサポートしていくとともに、20代40代のOB・OG同士の交流活性化を仕掛けていきます。

広報部会

【副岸 泰志(大30)】

広報部活動としては、名古屋支部会員の最新情報をメルマガ、ホームページへ掲載し、会員間での情報共有をはかり、より多くの方々に陵水会活動を知って頂くのがメインの活動となります。その広報活動の年度ごとの総括版が年度総会案内と同時に配布される会報となります。この広報活動を地道に続けていくことが、上下、横の会員同士の絆を強め、かつその輪を広げていくことに寄与するものと期待しております。名古屋支部会員の皆様におかれましてはフレッシュな情報提供をお願いします。

陵水会名古屋支部 支部役員

役職名	氏名	卒業年次
顧問	吉田 宜正	大8回
顧問	村瀬 英巳	大15回
支部長	片岡 嘉幸	大25回
副支部長	米澤 正治 (学生*)	大25回・院5回
副支部長	荒木 俊雄 (組織)	大29回
幹事長	塚本 浩三 (学生)	大30回
副幹事長	小田切 純子 (組織・若手)	大23回
副幹事長	榎本 尚哉 (総会*)	大25回
副幹事長	落合 睦司 (組織*)	大30回
副幹事長	岸 泰志 (広報*)	大30回
副幹事長	内田 誠 (総会)	大31回
副幹事長	堀 洋一 (総会)	大31回
副幹事長	横井 隆幸 (広報・学生)	大33回
副幹事長	中川 雄志 (広報)	大50回
副幹事長	挽内 健児 (組織)	大50回
副幹事長	土屋 貴巨 (学生・若手*)	大54回・院46回
副幹事長	肥田 茂之 (学生)	大54回
副幹事長	土屋 敦史 (学生・若手)	大57回
副幹事長	今井 綾乃 (広報)	大58回・院41回
会計幹事	表野 宏和	大29回・院9回
監事	山内 佳紀	大23回

陵水会名古屋支部 本部役員

役職名	氏名	卒業年次
副理事長	片岡 嘉幸	大25回
理事	小林 耕士	大20回
理事	荒木 俊雄	大29回
理事	塚本 浩三	大30回
代議員	長谷川 信三	短7回
代議員	倉坪 和久	大13回
代議員	奥谷 弘和	大14回
代議員	吉田 稔	大15回
代議員	山内 薫	大21回
代議員	山内 佳紀	大23回
代議員	榎本 尚哉	大25回
代議員	米澤 正治	大25回・院5回
代議員	表野 宏和	大29回・院9回
代議員	内田 誠	大31回
代議員	堀 洋一	大31回

(支部役員参考) *印は部会長

組織：組織部会
 総会：総会部会
 学生：学生部会
 若手：若手部会
 広報：広報部会

陵水会名古屋支部 卒業年次別 幹事名簿

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
高商21	杉浦 弘	大学20	鹿住 誠	大学32	船坂 宏樹	大学42	長瀬 昌彦
大学2	鹿野 磯夫	21	山内 薫	32	目時 義通	43	小林 靖
4	近藤 勇雄	22	今井田 昭三	33	鈴木 俊彦	45	水野 俊之
5	清水 有	23	小田切 純子	33	菱田 裕之	46	齊藤 正和
6	伊與 正道	23	山内 佳紀	33	横井 隆幸	49	中澤 良次
7	坂 清司	24	近藤 一菜	34	田中 直樹	50	中川 雄志
8	脇田 佳男	25	榎本 尚哉	34	千喜良 博	50	挽内 健児
9	大西 敏隆	25	片岡 嘉幸	34	丹羽 宏和	53	稲山 大介
10	大野 真一	25	米澤 正治	35	三村 祥章*	54	土屋 貴巨
短大7	長谷川 信三	26	三宅 郁夫	35	三輪 孝秀	54	肥田 茂之
大学11	内藤 嘉美	27	伊藤 博樹	35	山崎 博己	57	土屋 敦史
12	水野 浩	28	牧野 博和	36	樋口 偉久	58	今井 綾乃
13	倉坪 和久	29	荒木 俊雄	36	吉橋 満	58	田中 憲
14	石原 秀夫	29	表野 宏和	37	伊藤 智弘	62	小野 翔
15	村瀬 英巳	30	落合 睦司	37	日比野 厚*	62	棚橋 紗夕
15	吉田 稔	30	岸 泰志	38	伊藤 裕人	64	磯野 詩織
16	辻本 勲	30	塚本 浩三	38	小田島 永	64	金井 信道
17	築瀬 悠紀夫	30	久田 寿一	39	浅井 俊博	65	田中 圭史
18	山下 松志	31	内田 誠	40	稲垣 明知	65	堀井 弘明
19	山口 郁夫	31	堀 洋一	40	坂野 晃	66	三品 花菜
20	板谷 憲治	32	河辺 昭宏	41	山田 剛		

<参考>新任者*

故岡田一氏を偲んで

岡倉坪和久 (大13)



だ純粹に私人としてその人柄に惚れ従ったのみだからである。

ちなみに、名古屋で「岡田一さん」の想い出を募れば、五回卒前後の方からすぐ手が挙がるだろうと思う。そのくらい、岡田一さんという方は人望と人気があった。ひと言で言えば、皆の兄貴みたく慕われていた。

岡田一氏(大3)は、「陵水会名古屋支部支部長」「陵水会理事長」を歴任され、2019年8月に87歳でご逝去されました。ここに足跡を記し、謹んで追悼の意を表します。
※岡田一氏の略歴は、末尾参照

たまたま昨秋ご家族より、「岡田一大先輩」の逝去を知らせる私信が届き、すぐ陵水会へ連絡をした経緯からこの稿を書くことになったが、実は荷が重い。自分は卒次10回若輩で、「名古屋支部」バカだった関係でいぶん可愛がっていただいたが、氏の公職肩書に触れる資格も縁もなく、た

決して威張らず偉ぶらず、あちこちで呑み会が持たれたが、来る者は拒まず、先輩後輩相等しく親しむ光景は、まさに「OB会」の原点そのものであった。皆でたのしくやろうよという家族主義的指向が、「支部長」岡田さんの基本理念だったのではないかと、今にして思う。

そんな場に、ある時、岡田さんが一枚の木板を抱えて現れて、太書で『陵水亭』と大書され自署された。これからはこの場をこう名づけ、もつ

と広く皆の場にしようよという思いの表出であった。今も続く「陵水亭懇話会」の原点。

そして、幹事長だった後輩の伊與さん(大6)にいとまあつさり「名古屋支部の新聞を創って皆に届けようよ。君、すぐかかってくれ」と命令(?)されて、伊與さんはすぐその年にほぼひとりで『名古屋陵水』第1号を創刊され、それが今も続いている。

新聞を通じて支部「総会」の案内も形も進化していつて、会費も組織的に集めるようになり、今思えば、こうやって東京・大阪などの地域でも「支部」が出来、その総合体として今の「陵水会」全国組織が形成されていった。

実行部隊の自分は、会計の時は年会費を少しでも集めようと、ゴルフ会の場でも集金したりして煙たがれたが、おかげで、全国で一番会費を集める支部になったり、総会の出席者数も全国一番になった。

その岡田さんが全国の「理事長」になられた時は、名古屋の皆が大喜びだった。名古屋から初めて全国OB会の会

長を出した、そんな喜びであり、ある種の誇りであった。

その任期中の「創立80周年記念行事」には、幹事長の私と副の岩田氏(大17)とで大型バスを仕立てて、皆で彦根まで賑やかに行った。そんな名古屋くさい思い出もなつかしい。

他に、岡田さんには「三好」という馴染みのスナックがあり、そこでは「陵水会」を名乗れば格安で遊べるとあって皆で出かけた。

岡田さんが理事長時代に国立大学改革が始まって、新設の大学理事三名のうち1名は民間から出したい「倉坪君、誰かいい人はいないかね」と相談があつて、ちょうど身近に同期の吉野君(大13)という適任者がいたので、推挙したら、そのまま決定してもらった。硬軟あわせて「岡田一さん」の思い出は尽きない。大先輩、ありがとうございました。

■岡田一氏(略歴)

令和元年8月26日

逝去 87歳

昭和30年3月

滋賀大学経済学部卒業(大

学3回)

昭和30年4月

中部電力株式会社入社

昭和57年7月

同支配人 燃料部長

平成元年6月

同取締役

平成3年6月

同常務取締役

平成7年6月

同代表取締役副社長

平成10年6月

同顧問(平成16年7月退任)

平成10年6月

株式会社トーエネック代表

取締役会長

平成11年3月

同代表取締役会長兼社長(平成17年6月退任)

この間、平成8年4月から平成12年4月まで、陵水会名古屋支部支部長。平成12年6月から平成16年6月まで、第14代陵水会理事長

※同じ記事が陵水会年報にも掲載されました

陵水俳壇

自句自解

鏡餅木遣り中を進みけり
石橋政雄(大6)

数年前に、同期の友と国府宮の裸祭を見に行った時の景である。棧敷から見下ろしていると最初に奉納される大鏡餅が通り、引く人々の木遣り歌が印象的であった。

伊與(正道)(大6)

鮎鮎や藍色深き湖東焼き

幕末の一時期彦根藩の御用窯として生まれ没した湖東焼。濃い藍色の器に鮎鮎を合わせれば、琵琶湖の伝統と文化が一体化し食通ならずとも満足させられる。

倉坪和久(大13)

同窓会やるかやらぬかコロナ梅雨
昨年来のコロナ禍には泣かされてはいる。毎年恒例の楽しみ会も散々迷わされた挙句、中止に。今年は是非にと思っているが。

青山政弘(大17)

腰痛に鳴けぬ番犬日向ぼこ

年末に孫とその友達と居間で遊んでいる時、テーブルから跳び着地した際に腰を痛めた様です。因みに、愛犬はミニチュアダックスフンドで胴長です。名

前はマロン、雌です。

片岡嘉幸(大25)

大根撒く今年は猿の来ぬ場所に九十を超えた親の面倒を見るため、週二回ほど実家で泊まり、名古屋と岡崎の二重生活をしている。実家では、幼馴染とのゴルフと野菜作りに勤しんでいる。野菜作りは難しく、予想以上の被害に困っている。

アンケート集計の途中経過

陵水会は、創立100周年を祝して、手軽に参加できる「お世話になりました」アンケートを設置。これまでの回答数は約600人。

【Q】特に心に残る食堂、喫茶店、居酒屋の店名は？

【A】年代別に(目算で)回答の多い店名を6つ
[1990年～2021年]

スイス・コウゲ・麵屋ジョニー・満福食堂・ラゲーナ(生協)・ござれ

[1970年～1989年]

喫茶田園・ゆかり・ござれ・丸正・とり源・わごん

[～1969年]

スター食堂・とりう・ランブル・魚仙・ござれ・すずめ

懐かしいと思った皆さん！あの名前がないなと思った皆さん！是非、ご回答を。



第82回名古屋陵水会ゴルフコンペ

【開催日】令和2年11月23日(月祝) 【会場】額田ゴルフ倶楽部
快晴の中、初参加3名を含む15名が集まりました。結果は以下の通りです。

- 優勝 井上真吾(大58) グロス 73 HD 0.0 ネット 73.0
- 2位 伊藤康男(大25) グロス 85 HD 10.8 ネット 74.2
- 3位 山下松志(大18) グロス 90 HD 15.6 ネット 74.4
- 4位 挽内健児(大50) グロス 106 HD 30.0 ネット 76.0
- 5位 稲垣信也(大22) グロス 91 HD 14.4 ネット 76.6

第83回名古屋陵水会ゴルフコンペ

【開催日】令和3年4月14日(水) 【会場】東名古屋CC
名門の東名古屋カントリークラブに集まったのは、初参加2名を含む15名でした。雨予想の天気も参加者の心掛けがよく、曇天ながら時々晴間のある絶好のゴルフ日和の中でのプレーが行われました。結果は以下の通りです。

- 優勝 井上真吾(大58) グロス 78 HD 3.6 ネット 74.4
- 2位 片岡嘉幸(大25) グロス 98 HD 22.8 ネット 75.2
- 3位 稲垣信也(大23) グロス 97 HD 21.6 ネット 75.4
- 4位 塩瀬和美(大22) グロス 100 HD 24.0 ネット 76.0
- 5位 清水一治(大09) グロス 95 HD 18.0 ネット 77.0

【ドラゴン】片岡嘉幸、酒井盛雄(大13)
【ニアピン】堀 洋一(大31)、井上真吾、伊藤康男(大25)
【大波賞】塚本浩三(大30)、【小波賞】山下松志(大18)

次々回 開催ご案内

第84回陵水会名古屋支部ゴルフコンペ
【開催日】令和3年11月23日(火祝) 【会場】額田ゴルフ倶楽部

片岡嘉幸(大25)

予 告

2021年度名古屋支部総会は【延期開催】と致します。

2021年度 名古屋支部総会

【日時】2021年9月19日(日) 【会場】HOTEL ルプラ王山(以上予定)

2022年度 名古屋支部総会

【日時】2022年6月25日(日) 【会場】HOTEL ルプラ王山(以上予定)

「原稿募集及びご意見を！」
皆様の原稿をお待ちしています。
※テーマ自由
「昔の支部会報」を探しています。
※お持ちの方はご一報願います。
編集担当 岸 泰志(大30)
☎ 090-13459-0523
E-mail tkishi@gc.comnufa.jp
.....



全ての記事の全文は、陵水会名古屋支部ホームページでご覧いただけます。